

施設概要及び検討状況の報告 (美術館)

北九州市立美術館（本館）の概要

- 美術の森公園に設置された建物は、磯崎新の美術館建築における初期代表作であり地域のランドマーク的存在である
- 近現代美術作品を中心に、約8千点を収集・保存している
- 山の上にあり、アクセスが悪い



施設概要

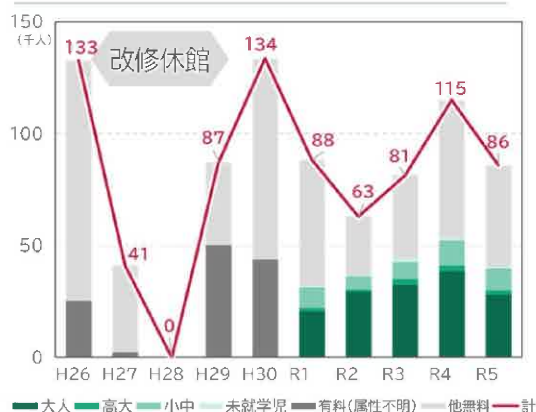
項目	内容
設置目的	美術品の展示等を行うことにより芸術、文化等の発展向上に寄与する。
所在地	戸畑区西鞆ヶ谷町21番1号
開館時間	9：30～17：30
開設時期	昭和49年

理念

市民と生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域とともに成長していく美術館

- 1 文化資源の伝承、作品の保存・修復
- 2 作品世界を多様に、存分に味わうための鑑賞機会の創出
- 3 地域とともに成長するための美術館体験の提供とボランティアの育成
- 4 美術の魅力発信
- 5 魅力的な美術館体験の伝承

入館者の推移



維持管理費の推移



その他

- 美術館協議会設置
- 開館当初から先駆的な美術ボランティア制度を導入
- 今後は、デジタル技術等を活用して、アート体験を提供する仕組み作りに着手
- 良質な企画展
(美連協大賞受賞 2013, 2018
奨励賞受賞 2016, 2019)

美術館の主な問題意識

appendix

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 年度内	①アンケート調査等による市民ニーズの把握が不十分である ②魅力あるホームページになっていない ③美術館は社会教育施設であり、観光施設の意識が薄いため、来場者へのサービスが十分でない	①デジタルサイネージなど、来場者がわかりやすい案内表示がない ②館内が古く、ひびわれ、雨漏りなど修繕が必要 ③予算上、草刈りが年に数度しかなく、美術館としてふさわしい美観が保てていない	①学芸員10人中5人が会計年度職員であり、展覧会の実施に追われているため、収蔵作品のDB化やオンライン鑑賞等が遅れている
中期 3-5年	①館内のマップパンフレット(多言語)がないため、来場者が観覧しづらい ②企画展と市民展が混在しており、美術館の方向性が分かりづらい ③美術館の強みである、SNS映える景色の良さや非日常感等を活用した演出や広報が十分でない	①著名な磯崎建築であるため、施設の改修等に制約が多く、わかりやすい案内表示の設置やショップの拡張が困難 ②アクセスが悪いが、予算の制約上、シャトルバスの確保が難しい。 ③駐車場の数が少ないため、人気の企画展では、混雑する	①維持管理費の増加(2年間で14%増)に伴う予算圧迫と人員不足により、施設の立地や魅力を活かした、新たな集客施策の企画・実施が難しい ②デジタル化を推進する新規予算の獲得が難しい
長期 5-10年	①社会情勢の変化と人件費、物価の高騰のため、集客力の高い、海外の大型企画展誘致が困難 ②美術に求められるものが多様化しており、来場者のニーズに対応した企画展の開催が難しい	①施設が老朽化しているため、美術館機能の存続に必要な維持管理費が高額(アネックス修繕費10億、年間の維持管理費1.8億) ②収蔵品は増加するが、収蔵庫の拡張が難しい	①事務職は短期で異動し、長期的な企画への関与が難しい ②学芸員の昇任ポストが少なく、人材育成が困難



概況

【短期】 市民ニーズの把握が十分でなく、ユーザー目線のサービス提供が不十分
【中期】 館の強みを活かした運営や弱みへの対応が不十分
【長期】 施設の老朽化対策に多額の経費が必要

利用者満足度ヒアリング調査結果

【美術館】

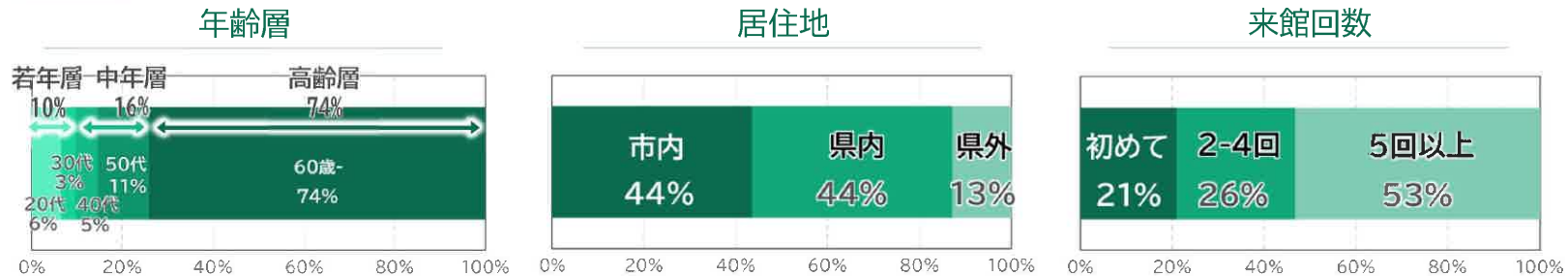
- 施設の美観、展覧会内容、カフェなどに満足する声は多い
- 一方、高齢層の来館が多く、説明や表示が小さくて見えにくい、カフェの存在が分かりにくいとの意見が多かった
- キャプションの字のポイント拡大、音声ガイドアプリの活用、施設情報の表示の改善等に取り組む

実施概要

○ 日時：2024年10月18日 11時～14時

○ 方法：ワーキングメンバーによるヒアリング

○ 回答：62人



満足している点

- 磯崎建築が素晴らしく、白い壁が美しい
- 所蔵品、展示品の質・量ともに満足
- 有名作家の他、地元作家の作品が見られる
- 入場料が安い
- 福岡では少なくなった真っ当な美術の展示が行われている
- スタッフの声かけなど、親切で対応がよい
- カフェは福岡市美や九国博よりも美味しい

改善してほしい点

- 字を大きくして欲しい
- 配置、順路が分かりにくく、案内表示を増やして欲しい
- 音声ガイドが欲しい
- バスの本数が少なく、またJRからの来方が分かりにくい
- もっと有名な人の企画展が欲しい
- ショップの商品を充実して欲しい

美術館の他都市類似館比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
※ 職員数…R6.4.1時点（館長除く）

appendix

- 他都市類似館と比較して、入場者1人あたりの行政の負担額は高い（3.3千円）

施設名		【北九州市】 美術館	福岡市 美術館	広島市 現代美術館	名古屋市 美術館	新潟市 美術館	島根県 美術館
人口（R5.10.1）		914,620	約1,600,000	約1,100,000	約2,300,000	約770,000	約650,000
運営方法		直営	直営+PFI	指定管理	直営	直営	直営+指定管理
展示面積（㎡） （学芸員1人あたり）		2,573 （257）	4,228 （352）	2,128 （266）	2,304 （209）	5,550 （925）	3,862 （386）
収蔵品数（件） （学芸員1人あたり）		7,951 （795）	16,387 （1365）	1,868 （233）	9,550 （868）	5,147 （857）	9,309 （931）
企画展数（回） （学芸員1人あたり）		5 （0.45）	7 （0.58）	5 （0.62）	3 （0.27）	3 （0.5）	40 （4）
入場者数（人）【A】		114,935	431,569	141,264	254,315	49,489	155,325
職員数 （人）	事務職	9	5	9	12	5	15（うち県3）
	学芸員	10	12	8	11	6	10
支出（千円）【B】		411,524	365,086	344,172	473,593	191,910	549,471
収入（千円）【C】		27,102	65,238	20,089	138,933	33,877	64,659
入場者1人あたりの 負担額【B-C】÷【A】（千円）		3.3	0.7	2.3	1.3	3.2	3.1

出所）R6北九州市聞き取り調査より（支出・収入は行政帰属分、支出は北九州市独自単価で直営人件費を加算）

SWOT分析

北九州市立美術館の方向性と課題

- 《方向性》 市民の生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域とともに成長するとともに、広域から多くの人を引きつける魅力ある文化交流の拠点となる
- 《課題》 人口減少や施設の老朽化などの課題に対応し、文化拠点として持続可能な循環を生み出す必要がある



内部環境

強み

- 磯崎新氏の代表作である建築
- 自然豊かな美術の森公園にある「丘の上の双眼鏡」（市民の認知）
- 50年にわたって蓄積された収蔵作品と少数精鋭の学芸員

弱み

- 施設の老朽化と維持管理費の高騰
- 人員不足
- 継続されない企画、広報事務
- アクセスが悪い

機会

- 国の文化観光施策推進やデジタル活用推進を目的とした地域資源への投資の増加
- インバウンド需要の復活
- AIなど新たなデジタル技術

強み × 機会

- 磯崎建築を観光の拠点として磨きあげる
- 資源の磨き上げによる文化観光の促進とウェルビーイングの向上

弱み × 機会

- AI、デジタルを活用した事務の効率化
- 国の事業を活用し、豊かな創造性を育成するための環境整備

脅威

- 他の施設との競争激化（多くの美術館が行きやすい場所にある福岡市の存在）
- 中長期的に続く人口の減少
- 物価・人件費等の高騰

強み × 脅威

- 北九州市立美術館のもつ独自の魅力の創出と発信
- 市民のシビックプライドとなるための教育普及事業の強化

弱み × 脅威

- 人口の減少・物価の高騰等を踏まえた、美術館のあり方の見直し

外部環境

美術館 ミッションの再定義に向けて

- 令和5年に策定した、美術館の基本理念や基本方針に加え、国の法改正や北九州市の文化芸術に関する新プラン等を踏まえ、改めてミッションを再定義する必要がある。

現 状	検討が必要な視点	ミッション（案）
① 設置目的 美術品の展示等を行うことにより芸術、文化等の発展向上に寄与する。 ② 基本理念 市民の生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域とともに成長していく美術館。 ③ 基本方針 地域とともに成長していく美術館「リビング・ミュージアム」を目指します。 ④ 運営上の課題 ● アクセスの利便性 ● 来館者数の減少 ● 予算上の制約 ● 人員体制の制約	① 文化観光の視点 国の法改正等により、博物館などは、文化観光など、求められる役割が多様化している。 ② 新プランの視点 ◆基本理念 まちに彩りを。心に豊かさを。多様な人を惹きつける文化共創都市。 ◆はじめに～抜粋～ 文化芸術がもたらす本質的・社会的・経済的な価値をさらに引き出す ③ユーザー目線への転換 供給者目線ではなく、ユーザー目線でミッションを再確認する必要がある。	市民の生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域とともに成長するとともに、広域から多くの人を引きつける魅力ある文化交流の拠点となる ミッションの柱 ①基本理念の更なる推進 ②文化観光への貢献 ③都市ブランド力向上への貢献 基本理念として「リビングミュージアム」を継承しつつも、文化観光の視点を取り入れて、広域から多くの人を訪れ、その魅力で都市ブランドを高める必要がある。

第1回 北九州市立美術館運営検討部会 意見まとめ

		提案に対して肯定的意見	提案に対して否定的・懐疑的意見
ミッション		○美術館が「稼ぐ」ということに無関心であってはいけない。これまでの社会教育施設としての役割を果たしながらも、収益性を意識すべき。	○文化観光によりすぎ。今適切なミッションなのか。社会問題の解決といった側面も必要では。 ○観光も大切だが、未来の市民を育てる教育普及や社会教育施設として地域に果たす役割が大事 ○人口減少のなか、民間と同じ目線で、ブームに載せた運営をしても危険ではないか。全国で黒字の美術館がほぼない中、ミュージアムは今後どうあるべきかを考えるべき。
変革の在り方	指定管理	○稼ぐためには民間の知恵が必要。民間に何をやらせるのか。インバウンドではなく国内に目を向けたほうが良い。ショッパ、広報(キャッチコピー)を民間とやっていくのはよいものが作れるではないか。 ○(長崎県美術館)財団による指定管理であり、運営と学芸分野を分けていないため、モチベーションは保たれている。入館者が多ければ、成果として得た収入は次の展覧会に回すことができる。利益を出しながら、やりたいことができるのはメリット ○直営では普及課の事務職は3年で異動し、引継ぎがうまくいかない。指定管理にすることで、他館の情報が入ってくるならメリットがある。	○指定管理を入れるとするなら業務分担がよいが、違う組織の人間が同じ目標に進むのは困難。成果を誰が得るのか。 ○サービスは向上するかもしれないが、経費節減にはならない。 ○指定管理を入れるなら、働く人が同じモチベーションを持てるよう、仕組みを考える必要がある。 ○指定管理における学芸員の処遇が問題。専門職としての扱いが必要。広報も今後は専門性が求められる。 ○(長崎県美術館)指定管理は職員の異動がなく、年々高給になり運営を圧迫している。どこまでを指定管理にするのか。ミッションに紐づいた仕組みづくりが必要。
	その他	○学芸員が「見せる」展覧会を作ることが大事。それを民間の強みを生かして広報するなど、役割分担が必要 ○ワークショップなどを利便性のよい街なかで実施して、家族を取り込むとよい。 ○美術の森公園はもともと壮大な計画があった。整備して不可加価値をつけてはどうか。 ○市民が集う公園にしてその中核施設として美術館を位置付けるべき。 ○全国の美術館で入場者が減少するなか、アクセスが悪い美術館に人を呼ぶには、運営形態の検討だけではなく、投資が必要。	

次回検討部会：9月30日(火)14時～16時

検討事項 ① ミッションの再検討 ② 他都市先進事例との比較検証・運営形態別のメリット・デメリット比較
③ デメリットの解決方法の検討 ④ その他論点整理